

〈チェックシート〉					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	絵本・お話の内容理解		「日本の昔話」「世界の名作童話」「創作絵本」それぞれ2作品のあらすじが言える。	「日本の昔話」「世界の名作童話」「創作絵本」それぞれ4作品のあらすじが言える。	「日本の昔話」「世界の名作童話」「創作絵本」それぞれ6作品のあらすじが言える。
ア②	絵本作家の理解		「描いた人の名前」か「文を書いた人の名前」が言える絵本が3冊ある。	絵本を見て、「描いた人の名前」や「文を書いた人の名前」がそれぞれ3人言える。	絵本を見て、「描いた人の名前」や「文を書いた人の名前」がそれぞれ5人以上言える。
ア③	保育の展開方法の理解		「絵本・お話」を保育に取り入れる時、「作る・歌う・動く」などの方法があることを説明できる。	「絵本・お話」を「作る・歌う・動く」などの方法で保育の組立を考えることができる。	「作る・歌う・動く」などの方法で模擬保育が展開できる。
イ①	語りの技能：声と表情		模擬保育に於いて、広い範囲に届く声を出して、話をしたり絵本を読んだりできる。	模擬保育に於いて、笑顔で子どもに語りかける事を意識して、話をしたり絵本を読んだりできる。	模擬保育に於いて、場面に応じた声と顔の表情を意識して、話をしたり絵本を読んだりできる。
イ②	語りの技能：テンポと間		絵本や話しの場面によって、「テンポ」と「間」が重要な事を理解している。	「テンポ」と「間」を意識して話したり絵本を読んだりできる。	子どもの反応に応じて「テンポ」と「間」をとることができる。
イ③	子どもの反応への対応力		文字を読むことに夢中になるのではなく、時々子どもの顔を見ることができる。	子どもの表情を捉えながら絵本を読んだり話を進めたりできる。	子どもの反応や発言に応じながら、絵本を読んだり話を進めたりできる。
ウ	適切な教材選択の判断力		子どもの年齢や、興味・関心、季節・行事に応じた教材を選ぶことが大事なことを理解している。	子どもの年齢や、興味・関心、季節・行事に応じた教材が判断できる。	季節や行事に応じた教材を組み合わせてまとまりのある保育を考えることができる。
エ①	絵本・お話への関心		絵本やお話を読んでもらったり聞いたりすることが、楽しいと思える。	図書館に行き、授業で紹介された本を実際に手にとって読んでいる。	図書館に行き、授業で紹介されなかった本にも興味をもち、探して読んでいる。
エ②	絵本・お話の世界を楽しむ感性		ストーリーや登場人物の思いがわかり、楽しいと思う。	登場人物の行動や思いを予想しながら、話しの展開を楽しむことができる。	登場人物に共感し、自分の経験と重ねながら、話しの展開を楽しむことができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					